

3.11 東北に想いを寄せて

● 大阪府生活協同組合連合会による福島県視察研修へ行ってきました



福島県にて 2025年11月18日(火)～19日(水)

福島県の地震、津波被害、原発事故の状況や現状、今後の課題について学ぶため、よどがわ市民生協からは組合員理事と職員の計2人で参加しました。



参加した組合員理事よりレポート

1日目

東京電力廃炉資料館を見学しました。東京電力の社員より現在原発1～4号機が『冷温停止状態』を継続している状況やALPS処理水の放出状況の説明を受けました。地震当時、5・6号機は点検中で稼働していなかったそうです。原発1～6号機の周辺をバスで巡り、廃炉に向けて作業を毎日3000人が行っていることを知りました。



私たちは福島第一原発の事故から学んだことを忘れずに、福島の今とこれからを知ること、家族や身近な人と話をすることを続けていきたいと思えます。

2日目

特定廃棄物埋立情報館『リプルンふくしま』では、環境省の職員から特定廃棄物事業の概要や必要性・安全性について、説明がありました。福島県内で発生した土壌や廃棄物を最終処分するまでの間に貯蔵する施設の『中間貯蔵事業情報センター』では、バスに乗って廃棄物が貯蔵されている施設状況を見学しました。『東日本大震災・原子力災害伝承館』においては、地震・津波・原子力発電所事故発生当時の状況が記録映像と無残に変形した消防車など数多くの物品展示があり、当時の壮絶な状況が体感するかのように見学することができました。

● 『桜ライン311』募金対象の大阪マラソンに今年も参加しました！

岩手県陸前高田市の津波到達点上に桜を植樹し、震災を後世に伝えるためのプロジェクトをおこなう『認定NPO法人 桜ライン311』が昨年に続き、大阪マラソン2026の寄付団体に選出されました。大阪よどがわ市民生協は、今年も桜ライン311の活動趣旨に賛同し、チャリティランナーを選出。今年、第2支所配送担当の山根上貴さんが思いを込めて走りました。

2026年2月22日(日)



これからも被災地に想いを寄せて…



2026年度東北支援募金ご協力をお願い

この募金は、『福島復興ステーション(福島)』『遠野山・里・くらしネットワーク(岩手)』に届けられ、福島県では原発事故からの復興、岩手県では復興公営住宅のコミュニティづくりなどの地域交流の取り組みに使用されます。「15年経っても、私たちは忘れない」という想いととも、協同の力で支えていきましょう。

期間 3月2回～4月2回

募金方法 注文書の募金カンパ欄「1417」に個数(100円単位)を記入してください。またインターネット注文『eフレンズ』でも募金できます。

※この募金は、所得税の寄付金控除の対象にはなりません。

ご協力よろしくお願ひいたします



職員に向けて 情報システムに関する学習会に 取り組んでいます

よどがわ市民生協では、職員に向けて情報システムについての知識向上と、業務の安全性や効率化を高めるため、さまざまな学習会を開催しています。

セキュリティ強化の取り組み

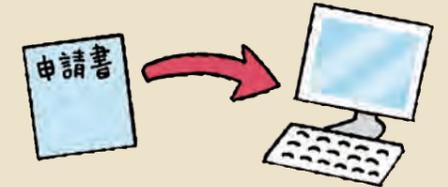
外部からの不正アクセスを想定した『標的型攻撃メール訓練』と『セキュリティ学習会』を実施し、情報漏えいを防ぐための意識向上に取り組んでいます。

新しい技術を使う取り組み

新しい技術への理解を深めるため、『生成AI学習会』を開催し、業務への活用方法や注意点を共有しました。

業務効率化の取り組み

業務効率化を目的に各種申請書の電子化をすすめ、職員が使えるように『電子化ツール操作学習会』を行い、紙からデジタルへの移行を進めています。



これからも、職員が安心して働ける環境づくりと、組合員にとってより良い情報システムのサービス提供のために、基盤整備に努めます。



今回は…

よどがわ市民生協が食材提供をしている団体紹介

団体名: ども食堂ルンルン

活動エリア 吹田市幸町 開催日 毎月第一土曜日



『ども食堂ルンルン』さんとは…

ども食堂ルンルンさんは会食形式のども食堂を月1回開催しています。子どもに関わる仕事(保育士など)を地域でされていた人たちが中心となり、2022年に立ちあげました。『親子がホッとできる居場所づくり』と、『子育て世帯への食料支援』が活動の目的です。



この日の献立は ハヤシライス、ポテトサラダ、りんごでした。

『あそびの時間』を大切にされています。この日は77人の親子が参加されていました。



この日は和大学の学生ボランティアさんと一緒に、牛乳パックでオリジナル羽子板を作り、楽しく遊びました。

よどがわ市民生協さんからいただく物資は、調理に使用したり、『おすそわけ』という食材配布の取り組みで活用しています。最初、ルンルンに来てすぐのころは元気がなかった人も、毎月お会いしていると、笑顔が見られるようになり、私たちもうれしいです。

1月のども食堂開催日に訪問♪



会場のコミュニティセンターに到着すると、お手玉や百人一首、こま回しなど、お正月の遊びを楽しむ子どもたちの姿が。ども食堂ルンルンさんは食事と一緒に多世代で楽しむ

よどがわ市民生協では、今後も地域団体の活動を支援していきたいと考えています。



地域とのつながりを切らさないように、今後も続けていきたいです。

『ども食堂ルンルン』柳さん・木村さん

紙面に載せきれない かわいいお話はこちら



● よどまる応援基金のご案内 ●

ども食堂などへ安定的に食材を提供するため募金にご協力ください。 ※この募金は所得税の寄付金控除の対象となりません。

募金方法 注文書の4ケタ・6ケタ注文欄「001419」に個数(1=100円)を記入。インターネット注文『eフレンズ』でも募金できます。

子ども食堂などを支援できる『よどまる応援基金』について かわしくはこちらから♪



毎週受付中～♪

